

令和8年度 第1回高知市子ども・子育て支援会議 議事録

日時	場所	傍聴
令和8年7月16日（木） 18:30～20:00	高知市役所本庁舎6階 611・612・613 会議室	可（傍聴者0名）
出席者		
<委員> 山下会長、井上副会長、大黒委員、菅野委員、高橋委員、武樋委員、中村委員、中屋委員、船井委員、正木委員、町田委員、森本委員、安岡委員、山崎委員、山波委員、森岡委員（代理 高知県青年団協議会 西村様） 16名 <事務局> こども未来部 山中部長、植田副部長、入木こどもみらいセンター長、こども政策課 松村課長、子育て給付課 西成課長、子ども育成課 泉課長、母子保健課 柏井課長、子ども家庭支援センター 角原所長、保育幼稚園課 伊勢谷課長、産業政策課 有光課長、教育政策課 野町企画調整担当副参事、学校教育課 佃副参事、青少年・事務管理課 北川課長、人権・こども支援課 谷本課長、教育研究所 越知所長 他		
欠席者		
—		

1 開会

2 議事 高知市こども計画（仮称）の最終案について

・パブリックコメントの報告

こども政策課から資料1をもとに説明。

・市議会への報告

こども政策課から資料2をもとに説明。

・計画の正式名称について

こども政策課から資料3をもとに説明。

・計画最終案について

こども政策課から資料4～6をもとに説明。

【質疑・意見】

・井上委員

前回、森本委員から保育時間を8時間にすることについて、愛着形成において保護者とこどもが過ごす時間の重要性をお話された。アタッチメントの重要性についての発言であったと認識しているが、その件に関して、働く女性の立場からの意見を伝える。

現在、皆さんご承知のとおり、本市は共働き世帯が多く、女性の就労状況についてもM字カーブから台形に変化しているように、子育て世代で就労している人が非常に多くなってい

る。そして、中堅として責任のある仕事を任されながら、多忙なスケジュールの中で子育てをしている。

仮に、8時間保育となると、祖父母などの支援や保育園以外での支援が必要になってくる。また、両親のどちらかが、時短勤務や非正規就労にシフトするということも考えられる。現状として、祖父母も現役で働いている方も多く、核家族で祖父母の支援がない世帯もある。勤務形態の変更は大きな決断が必要になる。このことは、キャリアの中断や収入の減少に繋がり、経済的にも精神的にも余裕のない状況になる可能性がある。

こどもからすれば、親と過ごす時間が増えることはプラスになると思うが、現実問題として、現在の労働人口の不足、この先も労働力の減少が続くことを考えると、8時間という保育時間が、現代社会にとって厳しい状況と考える。フルタイムで8時間働くとなると、昼休憩を挟むと9時間、移動時間を考えると最低でも10時間は必要と思う。アタッチメントで大切なのは、時間も大切だが、その時間をどのように過ごし、近しい大人とどう信頼関係を形成するかだと思う。こどもの幸せのためには、家族も幸せでないといけない。保育園、幼稚園の関係者の方、また、それらを含む高知市の子ども・子育て政策の中では、現代の限られた時間の中、こどもと保護者がどう向き合い、どう関わっていくか、限られた時間の中でどうアタッチメントを形成していけばいいのか、その援助や支援、親子関係構築のサポートに計画も反映させていただきたいと思う。

・山下会長

今後、施策を推進していくにあたって、社会情勢なども踏まえながら、しっかりと親とこどもが向き合っていけるような取組を進めることについて、ぜひ推進にあたって反映させていただきたいと思う。

・菅野委員

資料4の59ページ 取組6の部分の事業内容について、「生徒指導アドバイザー」、「心の教育アドバイザー」という記述があるが、何をしているアドバイザーなのか分からないため、普段出てこないような単語には、注釈を入れるなどの対策が必要になるのではないかと。

・こども政策課

専門用語については、計画本文の最終案には記載していないが、巻末に注釈という形でどなたが読んでも分かりやすいような工夫をしたいと考えている。

・正木委員

資料4の100ページ 「こども・子育て支援事業債 活用予定事業一覧」について、高齢者支援課の2つの事業（「西部健康福祉センター施設整備事業」、「福寿園の整備事業」）について、こども・子育て支援の定義からは外れているのではないかとと思うが、どういった事業としてあるのか。

・こども未来部長

高齢関係の施設整備事業になるが、今後、高齢者とこどもとの交流の場としての発展が、可能性として考えられることから、今回、可能性のある事業として搭載している。

・船井委員

資料4の92ページ 1歳6か月児健診、3歳児健診が挙げられているが、令和10年度に全市町村で行うこととされている5歳児健診について、実施の目的としては、3歳児健診で発達障害（神経発達症）が見つかった場合、療育センターや大学で指導を受けるなどしているが、それでも漏れる子がいる。アスペルガー症候群（高機能自閉症）は、知的レベルが保たれている場合は把握しづらく、小学校に入ってから対応が必要な場合がある。そうした子を、現状の就学時健診（年長）で見つけても対応が遅れるため、年中の5歳児で行い、1年半の余裕を持って対応し、小学校でのフォローや専門家のアドバイスができる体制を作ろうとしている。

高知県5つの市町村（安芸市など）は5歳児健診を行っているようだが、高知市はまだ行っていない。高知市のような大きなところは、少子化とはいえ年間1,600～1,700人の出生があるため、1歳6か月児健診や3歳児健診でも医師や看護師などの体制を整えるのが大変な中、さらに5歳児健診で体制をとるとするのは厳しいのではないかと。高知市として、今後どのように取り組んでいくのか。

・こども未来部長

現在、高知県が中心となって、関係市町村とこれからどのように進めていくか、5歳児健診を実施していくにあたっての課題等の洗い出し、その課題に向けてどのように対応していくかという点を協議しているところである。当然、高知市としても実施に向けて、今後具体的な準備を進めていくが、今回、この計画はあくまでも令和8年8月の策定時点での事業ということで、あえて明示はせず、登載を見送ったものである。計画を適宜見直していく中で、方向性が決まれば、事業一覧の中に登載していきたいと考えている。

・船井委員

高松市、松山市、徳島市は今年度から来年度中にも取り組んでいくという具体的な話が出ている。高知市と同規模または同規模以上の都市で5歳児健診を行うのは難しいと思っていたが、四国4県の県庁所在都市のうち他の3市は取り組んでいくことが具体的に決まっている。高知県が主体となって進めている中、高知市はどうなるのかと心配である。

・山下会長

この計画については、今後PDCAを回していく中でスクラップし、新たな事業が立ち上がったり、あるいは作成時点の事業から付け足しがあったりと変化していくと思う。その際、また色々のご意見をお伺いすることもあると思うので、よろしくお願いします。

・菅野委員

資料1の4ページ こども向けパブリックコメントの「その他」で「自分の意見が参考になって良かったです」や「私もみんなで話し合ってみたかったです」といった意見があり、大変有意義なものだと感じた。それを踏まえて、若者に対して意見を確認する機会、今回のパブリックコメントや集まって確認するミーティングのような取組を若者に対して行う予定は何か考えているか。

・こども政策課

若者の意見を聞く場は、取組を進めていく上で重要だと考えている。計画策定にあたって、こどもワークショップを実施したが、若者に関しても同様にワークショップやアンケートなど、意見を聞く場を計画や施策に反映できるよう検討していきたい。

・菅野委員

資料4の70ページ 取組9のラブアクト推進事業に関して、マッチングイベントを企画・実施すると書かれているが、若者はイベントに参加する形ではなく、マッチングアプリなどを使いインターネットを通じて出会うケースが多い。今の時代を考えると、イベントではなくアプリなどの仕組みに投資する、あるいは一から土台を作るのではなく、民間のサービスに相乗りする形で支援を行っても良いのではないかな。

・山下会長

手法は色々あると思うので、若者の声も聞きながら、どういう出会いが良いのか工夫してもらいたいと思う。

・青少年・事務管理課

今年度はマッチングイベントを計画しているが、今後、ご提案のあった方法も検討していきたいと思う。

・町田委員

資料2の④ 委員からのご意見にある「国に専門組織がない中で」という部分は、どういう意味か。

・こども未来部長

委員からの意見をそのまま記載したが、私どももこの発言の正確な意図は分かりかねている。委員としては、若者向けの就労支援施策への取組を強力に推進してほしいという趣旨であった。詳細についてはこちらから特に確認していない。

・正木委員

資料6の6ページ デザイン的なことだが、ふり仮名について、全て黒で統一されているのに対し、6ページだけカラーになっている。黒で統一した方が良いのではないかな。

・こども政策課

資料内容については、確定しているものではないため、より良いものにできるよう、いただいたご意見を踏まえて庁内で検討する。

・山波委員

資料4の25ページ 「高知市が好きですか」から「大人になっても高知市に住みたいですか」という質問に移る際に、ギャップが生じるということであった。確かにそうだと感じ

るが、自校に来ているこどもたちに同じような質問をしたところ、言葉のニュアンスかもしれないが、「大人になっても高知にいたいです（残りたいです）か」と聞くと消極的な回答が返ってくる。しかし、「大人になって一度外に出るけれど、いつか帰ってきたいですか」と聞くと、「そうだ」と答えるこどもたちが肌感覚として非常に多い。そのため、「戻ってきたいですか」という質問であれば、結果は少し違っていただかもしれない。「このまま高知に残りたいですか」という捉え方をすると、このような数字になるのだと思う。今後、高知市の施策として、一度外に出ることを前提に考えることも必要であろうし、それを踏まえて戻ってきたくするような設計が必要になってくるのではないかと思う。

・山下会長

計画を見直す際、ぜひ視点として取り入れていただければと思う。

・菅野委員

町田委員の話（資料2の④「国に専門組織がない」）に関連して、国として、大学生に向けた就職支援はあまりないというのが正直なところである。新卒と言われる世代は、ハローワークへ行って就活を行うのではなく、専用サイトからエントリーシートを提出し、企業に対して就活を行うのが一般的である。これに対して就職氷河期世代などは、ハローワークへ行き助成金を受け取るなど、新卒にはない支援を使って就職活動を行うことができる。若者（新卒など）に向けた就職活動を支援する専門的な支援体制があるかと言われると、十分に整備されていないように感じる。そうした点から、若者に向けた就職支援は、他の世代と比べて弱いのではないかと大学生の立場として感じている。

・山下会長

いずれにしても、若者が高知で働きたいと思えるような環境づくりや就労支援も含めて、高知市として計画を強力に進めてほしいというメッセージだと思うので、今の意見も含めてよろしくお願いします。

・安岡委員

資料1の4ページ こども向けパブリックコメントの中で、No. 9の最後に「理想主義より現実主義であるべき」という鋭い意見があるのが気になった。「計画が理想であって、本当に反映されるのか分からない」というこどもの不安はもっともだと思う。一方、資料4の26ページでは、高知市への要望として「遊ぶ場所をもっと増やしてほしい」という意見が高校生などからも多く寄せられている。

実際に実行してくれるかどうかを不安に思っているこどもたちに対して、遊ぶ場所を増やすことを優先的に進められれば、計画が理想主義に終わらず実行されると実感してもらえるのではないか。こどもたちからのアンケート結果も踏まえ、実行していただきたい。

・町田委員

資料4の93ページ 若者の就労支援について、高知市にこれほど多くのメニューがあることを初めて知った。私の所属する高知若者サポートステーションでは、15歳から49歳までの方を対象に、厚生労働省と高知県教育委員会から委託を受けて支援を行っているため、

今後、連携できる部分があれば、ぜひよろしくお願いします。

・山下会長

前向きな意見であり、連携して環境づくりをよろしくお願いします。

・山崎委員

資料4の100ページ こども・子育て支援事業債について、資料を見る限り既存施設の改修が主な内容に見えるが、予算規模はどの程度なのか。幼少期は高知が良いと感じていても、成長するにつれて住み続けたいと思う人が減っていく現状があるため、若者が夢を持てるような施設を新たに作っていく必要があると考えるが、こども・子育て支援事業債は既存施設の改修にのみ充てられ、新規施設の建設などには活用できないのか。

・こども政策課

既存施設の改修のほか、新たな施設の整備も含まれている。アンケート調査結果からも高知市の施設に関する様々なニーズがあるため、財政上の負担なども考慮しながら、できるものから順次検討していきたいと考えている。

・森本委員

こども・子育て支援事業債は、高知市の公共施設における事業に限定されるのか。

・こども政策課

公共施設に限定されず、社会福祉法人や医療法人などの民間施設も対象に含まれる。

・森本委員

公共施設の整備に加え、民間の施設に対する施設整備の補助において、こども・子育て支援事業債が活用できると捉えてよろしいか。

・こども政策課

そのとおりである。

・菅野委員

資料4の41ページ 課題3の部分にアンケート調査結果として、「いろんな職業体験をするイベントがあると良い」「将来の夢を体験できるような場所が欲しい」といった意見がある。キャリア教育を行う上で非常に重要であり、実現してもらいたいと感じる一方、民間企業に依頼する際の強制力がないため、後ろ盾となるような法令や、市としての方針・枠組みなどはあるか。

・産業政策課

高知市単独の取組ではないが、現在、高知県においてこどもの職業体験や企業訪問を支援する取組が行われている。県内の民間事業者から、企業見学等の受け入れが可能な企業を募って一覧表を作成し、教育委員会を通じて学校に提示している。これまでは一部の教員が知

っている特定の事業者に依頼が偏る傾向があったが、そちらを活用することで、積極的に受け入れが可能になると思う。高知市の単独事業がない部分については高知県と連携して進めている。

・山波委員

資料6 「こどもやさしい版」は、主に小学生や中学生、また高校生などの若い世代が目にする資料という位置づけでよろしいか。

・こども政策課

主に小学校、中学校向けを想定している。高校生については、「概要版」をご覧いただく方が適していると考えているが、明確な線引きは設けていない。小・中学校に向けては、計画の周知にあたり、「こどもやさしい版」にアクセスできる二次元コードを提示するなどして周知を図っていきたいと考えている。

・山波委員

資料5の2ページと資料6の2ページ 不登校児童生徒数の推移のグラフについて、資料5「概要版」は全国平均と比較するため折れ線グラフが適していると思うが、資料6「こどもやさしい版」は全国平均と比較しているわけではなく、「1,000人あたり」という表現はこどもにはイメージしづらいのではないか。シンプルな棒グラフの方がこどもたちにとって分かりやすく、イメージしやすいのではないか。

・山下会長

小学生が読むことを前提に構成すれば中学生や高校生にも分かりやすくなるため、表示方法の工夫をお願いします。

一通り意見をいただいたが、以上でよろしいか。今後、計画が完成し、推進していく過程で、また皆様のご意見をいただく機会もあると思う。

それでは、高知市子ども・子育て支援会議として答申内容を決定する。賛同する方は挙手をお願いします。

全員の挙手をいただいたので、承認する。

3 報告 今後の予定と計画の周知について

こども政策課から資料7をもとに説明。

4 閉会